

# 農業技術

## プリズム

一般的な豚の飼料は、成長に必要なタンパク質を十分に満たすよう設計されており、吸収されなかったタンパク質は窒素として排せつされます。環境に配慮した養豚経営が求められる中、窒素排せつ量の低減が課題となっています。

そこで今回、肥育後期豚用飼料の標準粗タンパク質含量（CP）14.5%を11.1%に減らし、アミノ酸のリジンを加えた飼料を給与し、尿汚水中の窒素含量を調べました。

CP11.1%飼料を給与した豚の尿中の窒素含量はCP14.5%給与した豚と比べ、約32%低減することができました。

### 豚の窒素排せつ量低減

## 飼料の粗タンパク質含量 14.5%→11.1%で効果

中の窒素含量は常に低い値を示しました（図）。枝肉成績については、CP11.1%飼料の給与により枝肉の背脂肪が厚くな

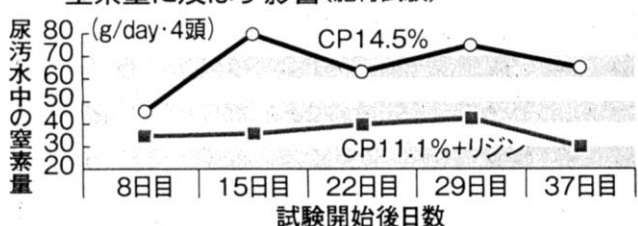
さらに、通常の飼育条件に近い群飼の条件で70kgから出荷体重108kgまで飼育した場合においても、肥育期間中の尿汚水

る傾向はあったものの、肥育成績や枝肉重量に差は見られませんでした。

今回の試験の結果から、肥育後期豚へのリジンを添加し豚の要求量を満たすように設計した低タンパク質飼料の給与は、窒素排せつ量の低減に有効だと考えられました。

（畜産研究部門／高山政洋）

図 飼料の粗タンパク質含量の違いが尿汚水中の窒素量に及ぼす影響（肥育試験）



飼養条件は4頭1群、豚舎内温度20～25℃、飽食給与、自由飲水とし、週に1回尿汚水を全量採取し窒素量を測定しました